

「鬼怒川の外来種対策を考える懇談会」を中心とした 地域連携方策について

Policy for Regional Alliance Focusing on “Actions on Invasive Alien Species in the Kinu River Conference”

生態系グループ 研究員 太田 昌志
技術参与 清水 俊夫
河川・海岸グループ 次 長 竹内 秀二
生態系グループ 研究員 寺尾 貴志
河川・海岸グループ 研究員 川田 貴章

1. はじめに

かつての鬼怒川は、河道内を流れが乱流し、礫河原環境が形成されていた。しかし、近年は滞筋が固定化し、比高差が拡大したため、シナダレスズメガヤ等の外来種が侵入し、鬼怒川が本来有していた礫河原が失われつつある。

このため、学識経験者、地元市民団体、関係行政機関で構成する鬼怒川河道再生検討委員会により平成22年3月に「鬼怒川中流部礫河原再生計画(案)」がまとめられ、当該計画に基づいて、砂州を切り下げ、大礫堆を復元することにより砂州を複列化させ礫河原を再生する事業が進められてきた。

同時に、「うじいえ自然に親しむ会」や「押上水神会」等の地元市民団体を中心となって積極的にシナダレスズメガヤの駆除やカワラノギクの保全活動が活発に進められてきた。

来種対策を考える懇談会」(以下「懇談会」という)が平成21年度に設立された。

本報告は、平成22年3月以降、平成29年2月の第10回まで、年1回程度のペースで開催されてきた懇談会を中心とした地域連携方策についてとりまとめたものである。



写真-2 シナダレスズメガヤの除去活動



写真-1 シナダレスズメガヤ(上)とカワラノギク(下)

これらの取り組みをより広域的、かつ効果的・効率的に実施するため、地域連携方策として「鬼怒川の外

2. 礫河原再生・外来種対策の取り組み区間

礫河原再生・外来種対策の取り組み区間は、鬼怒川中流部83.0k~101.5kである。

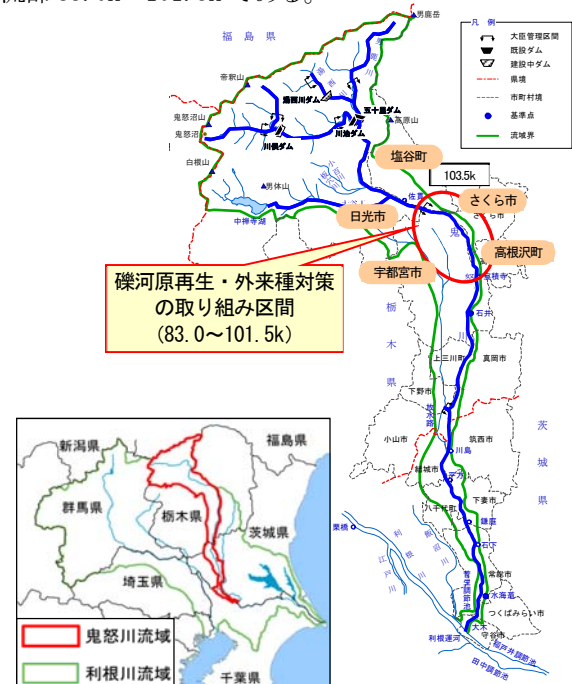


図-1 礫河原再生・外来種対策の取り組み区間

3. 懇談会のこれまでの取り組み

懇談会は、平成 21 年度以降毎年開催され、毎回、出席者全員が環境保全活動の報告を行い情報の共有を図ると共に、活動に関する疑問や悩みについて意見交換を行っている。

本研究では、懇談会の設立趣旨を踏まえ、地域住民等が過度な負担なく活動を継続していくために参加者の要望を踏まえた役割分担のあり方や情報共有の仕組み等についてとりまとめを行うと共に、その成果をパンフレットの作成や分かりやすい地域活動のカレンダーの作成等に繋げてきた。

表一 1 懇談会の開催日時・主な議題

開催日時・主な議題	
第1回	平成 22 年 3 月 8 日(月)：さくら市氏家公民館 ・鬼怒川の礫河原再生に関する取り組みの概要 ・市民等による河川環境保全活動の実施状況 ・地域との連携による外来種対策促進についての意見交換(活動上の課題・問題点、行政への要望、他河川事例等)
第2回	平成 22 年 12 月 10 日(金)：さくら市第二庁舎 ・鬼怒川における市民等による河川環境保全活動の紹介 ・事務局より情報提供 ・地域との連携による外来種対策促進についての意見交換(持続可能な組織・体制づくり、情報共有の仕組み)
第3回	平成 23 年 3 月 4 日(金)：さくら市氏家公民館 ・地域との連携による外来種対策の促進について ・今後の具体的な取り組み方策案(外来植物対策の実施方策、パンフレット等の広報方策)
第4回	平成 23 年 11 月 17 日(木)：さくら市氏家公民館 ・具体的な地域と連携した外来種対策の実施方策の実効性確認 ・意見交換：地域との連携による外来種対策の促進について(組織体制と役割分担、広報方策と情報の共有化等)
第5回	平成 24 年 2 月 22 日(水) さくら市氏家公民館 ・鬼怒川における環境保全活動の紹介 ・意見交換：地域との連携による外来種対策の促進について(組織体制と役割分担、広報方策と情報の共有化等) ・今後の鬼怒川中流部における外来種対策
第6回 第7回 第8回 第9回 第10回	平成 25 年 2 月 7 日(木)：さくら市喜連川公民館
	平成 26 年 2 月 6 日(木)：さくら市氏家公民館
	平成 27 年 2 月 12 日(木)：さくら市喜連川公民館
	平成 28 年 2 月 27 日(水)：さくら市氏家公民館
	平成 29 年 2 月 22 日(水) さくら市氏家公民館 ・鬼怒川における環境保全活動の紹介 ・意見交換：環境保全活動に関する疑問や悩み

4. 平成 28 年度の懇談会の取り組み状況

平成 28 年度は、下館河川事務所により、沿川の市民団体や自治体に対し、鬼怒川本来の礫河原固有生物の重要性や外来種対策の必要性等について説明が行われ、懇談会への参加の働きかけがなされた結果、懇談会の参加団体は、市民団体 9 団体、さくら市等沿川自治体、栃木県、さくら市内小学校 3 校、近隣の高等学校 3 校、日光砂防事務所、下館河川事務所等、計 27 団体となり、広域な活動ネットワークが形成された。

平成 29 年 2 月 22 日にさくら市氏家公民館で、第 10 回懇談会が開催され、礫河原に生息するシルビアシジミや食草となるミヤコグサの保全対策、シナダレ

スズメガヤ等の外来種の駆除活動に関する報告が行われ、市民団体や学識者の間では、ミヤコグサの移植方法や礫河原の再生について意見交換が行われた。

下館河川事務所からは平成 27 年 9 月に発生した出水からの復旧状況などが説明され、出水で洗掘された護岸や高水敷の復旧工事は、現在も施工中の箇所が残っている状況や、出水後の礫河原の生物のモニタリング調査では、指標種及び外来種の確認箇所が増加している状況が報告された。



写真-3 第 10 回懇談会の様子

表一 2 第 10 回懇談会で報告された主な内容

項目	内容
環境保全	・ミヤコグサ、シルビアシジミ保全活動 ・ミヤコグサの試験管栽培と移植 ・シナダレスズメガヤの抜取り ・オキナグサの栽培 ・オオフトバムグラの除草作業
教育	・小学校への出前授業 ・カワラノギクの観察会
その他	・学校の環境緑化コンクール優秀賞受賞 ・オキナグサ盗掘被害の報告 ・H27.9 の出水からの復旧状況の説明 ・ミヤコグサの生態に関する意見交換 ・礫河原再生に関する要望

5. おわりに

鬼怒川の外来種対策は、地元市民団体等の主体的活動となって定着しているが、今後も懇談会等における関係者間の情報共有や意見交換を通じて、国、関係者が連携・サポートできる組織体制の充実が重要と考える。同時に、活動を継続していくための方策として、活動の「楽しみ」や「やりがい」をいかにして提供できるか、懇談会を活用して具体化していく必要があると考える。

<参考文献>

- 1) 恵美進一・清水俊夫・川田貴章・山西陽子：鬼怒川中流部における礫河原再生に係る地域連携方策について「リバーフロント研究所報告」第 27 号
- 2) 下館河川事務所：鬼怒川中流部礫河原再生計画(案) (2010)